

国語

国語

第1問 次の各問いに答えよ。

問1 次の傍線部のカタカナをそれぞれ漢字に改めよ。(楷書で記すこと。)

- | | | |
|------|----------------------|----|
| (1) | 田舎のシンセキの家から荷物が届く。 | 1 |
| (2) | 時代の波にホンロウされる。 | 2 |
| (3) | そんな話は砂上のロウカクだ。 | 3 |
| (4) | イロウのないようにもう一度書類を見直す。 | 4 |
| (5) | 今は亡き人をツイボする。 | 5 |
| (6) | 少々ゴヘイのある言い方だ。 | 6 |
| (7) | アイマイな答弁に終始する。 | 7 |
| (8) | 保険のヤツカンをよく読む。 | 8 |
| (9) | ユウカイした犯人を検挙する。 | 9 |
| (10) | 激しいシットを覚える。 | 10 |

問2 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで記せ。

- | | | |
|------|--------------------|----|
| (1) | 和服に足袋といういでたちで出かける。 | 11 |
| (2) | 雪崩をうったように人が押し寄せる。 | 12 |
| (3) | 遠くの知人の訃報が届く。 | 13 |
| (4) | 選挙区を遊説して回る。 | 14 |
| (5) | 動物には帰巢本能がある。 | 15 |
| (6) | 彼と彼女は懇ろな間柄だ。 | 16 |
| (7) | 兵糧攻めにあう。 | 17 |
| (8) | 畑の畝が何本も見える。 | 18 |
| (9) | ガスをボンベに充填する。 | 19 |
| (10) | 書類を速やかに提出する。 | 20 |

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

二〇一九年は写真誕生から180年の節目を迎える。注目したいのは、写真術の黎明期とデジタルカメラ初期との相違である。^(注)ダゲレオタイプやカロタイプに始まる一九世紀中葉の写真は、その誕生期から芸術表現としての意識が芽生えていた。初期の作品はいま見ても美しく、たとえばウィリアム・ヘンリー・フォックス・トールボットが発明したカロタイプは、世界最初の写真集『自然の鉛筆』からも分かるように、すでに美術作品としての到達を示している。

それらと、30万画素程度のデジタル初期の画像は、そのまま比較することはできないだろう。だが画質が劣っているにもかかわらず、デジタルが急激に成長したのは、イメージではなく社会全体がデジタル化したからである。写真術がレンズと感光剤の歴史の上にあるなら、デジタルイメージは電子工学とIT技術の開発史上にある。哲学者ヴィレム・フルッサーが使った「テクノ画像」という言葉を借りれば、デジタルイメージとは複合的な技術のうえに成り立つ、一種の「コード」なのである。

カメラを用いて作成された画像という意味では180年前のダゲレオタイプも今日のインスタグラムもまとめて「写真」と呼ばれる。だが両者のあいだにはそれなりの開きがある。一九九〇年代以降のデジタル写真を成り立たせているのは、プログラム言語を含む複合的なコードである。したがって平成の大逆転が起きたのは、複合的な技術によって社会全体がコード化され、その中心的な役割を「テクノ画像」としての写真が担うことになったからなのである。

デジタルイメージを理解する鍵は、この「I」にある。「テクノ画像」というコード化されたイメージがいったん誕生すると、ありとあらゆるデジタル技術が次々と、そのうえに載ってくる。写真はもはやそれ自体、単体で独立したものではありません。製作から流通まで、すべてのプロセスに、さまざまな他の技術が介入するようになる。たとえばGPSデータというコードが載ってくると、写真は地図と合体して「複合的テクノ画像」となり、「現在地」のイメージを提供するようになる。わたしたちが社会のIT化と呼んできたのはこうした複合化のことだろう。

あるいは今では当たり前になった、顔認識機能がある。フレームのなかにある顔を認識する機能だが、搭載された時にはなぜこんなものが必要なのだろうと訝^{いぶ}ったカメラマンも多かったはずである。人間の顔を認識できないでシャッターを切る人間が、そもそもいるのだろうか。しかし平成の30年は江戸の30年どころか、複製技術としては印刷術以来の革新期である。技術は10倍速、いや100倍速で進み、カメラは顔を認識するどころか、表情を識別するようになる。

たとえば集団のなかの笑顔や目を閉じている顔をチェックして、カメラに判断させる。こんなことまで自動化されれば、人間がすることはほとんどなくなるわけだが、この段階にいたってカメラの「顔認識」が「顔認証」のために必要不可欠なテクノロジーだとわかってくる。いまや写真は社会全体のコード化のための、プラットフォームだからである。

ヴィレム・フルッサーは「テクノ画像はテキストのメタコード」と、かなり抽象的な言葉遣いで表したが、要するに現在の画像が示しているのは、かつての風景画や肖像画が描いたような「目に見える対象の世界」ではなく、「複合的なテキスト」だということである。ここでのテキストとは、画像の製作から流通までを含むさまざまなプログラムである。通常それらはテクノ画像を成立させているプロセスであり、眼には見えない。テクノ画像としての写真を成立させているのは、多種多様なコードのⅡとしての形式であり、個々のコードをつないでいるコードとしての「メタコード」ということになる。デジタル化された現代では、この形式の力が絶大であり、それはほぼ内容を規定するようになっている。

だがメタコードとしてのテクノ画像が、本格的に日常生活を変えてゆくのは、そこからである。カメラのデジタル化と並んで平成の重要な出来事は、i P h o n e の登場とそれに続くスマートフォン市場の爆発的な成長だ。写真史的にも、むしろこちらのほうがより長く続く衝撃となるだろう。これによって、カメラは常に身につけているという意味でポータブルよりもウェアラブルな性質をもち、同時に写真は瞬時に拡散され、Ⅲされる傾向を帯びることになった。ここから写真はインフラストラクチャーとしての性格を強めてゆく。

現代社会では環境の整備や情報基盤、ソフトウェアの動作環境について話題にするとき、プラットフォームという言葉を使うことが多い。個々のプラットフォームを支えるインフラストラクチャーは、たとえばエネルギーがそうであるように、物質としては時代によって変化しながらも、社会にとって欠くことのできないものである。写真が社会のコード化にとって中心的な役割を占めるようになり、それはエネルギーがそうであるように、ふだんそれを意識することのないインフラの一部になりつつある。

意識されないからインフラなのだとも言えるが、たとえば「Googleが提供する「ストリートビュー」のような、位置情報と組み合わせた写真情報サービスはその顕著な例^Bだろう。

二〇〇七年に開始されたストリートビューは、車が通れるところならどこでもパノラマ写真を使った360度の視界を得られる。その拡大のスピードはこれもまた驚異的で、サービス開始から5年で39カ国、3000都市、距離にして50万マイルに及ぶ道路をカバーしたと発表された。現在では車載カメラだけでなく、バイクや徒歩などさまざまな撮影方法が稼働し、二〇一八年には犬の視点で撮影された「ドッグビュー」が登場するなど、カバーする空間が量的に拡大するだけでなく、質的にも多様化している。そこから派生するさまざまなビジネスは言うまでもないが、ストリートビューは前例のないブランドとして成長を続けている。そのコンセプトは、究極的にはあらゆる場所をつなげて、一枚の風景写真にするということだろう。ホルヘ・ルイス・ボルヘス^(注)の寓話を彷彿とさせるが、地球のパノラマがポケットに入り、どこへ行くにもそれが現在地を示すという、ウェアラブルな地球儀の実現である。

これに先んじて、社会のコード化に使われてきたのが証明写真用のポートレートである。その

始まりは一九世紀の司法写真の始まりにまで遡るが、現在の使われ方は質的にも量的にも、インフラ化していると見てよいだろう。たとえば二〇一八年にはスマホのロック解除に顔認証が実装された。そこでの「顔写真」は、単なる肖像ではない。特徴検出や画像アーカイヴといった、膨大なメタコードが支えている複合的なテクノ画像にほかならない。

全世界のユーザーの顔写真が管理される世の中は、高度なセキュリティ体制が世界中の空港に配備される世の中でもある。そのような世界で顔写真は、まさにさまざまなプロフィールを付加された、複合的なテキストとして存在している。インフラ化した顔写真が示すのは、肉体をもつ顔ではなく、膨大なデータの集積であり、そこに消費行動をはじめとするさまざまな履歴が含まれることは言うまでもない。

このように情報化社会のインフラとなった写真や映像を、わたしは「インフラグラム」と呼ぶ。多くの読者は、語の響きからインスタグラムを連想するだろう。そこで思い出してほしいのは、インスタグラムが「テレグラム」すなわち電報から発想された造語だという点である。テレグラムがⅣの言葉とすれば、インスタグラムは瞬間性の言葉だろうか。同じ発想から、インフラグラムは現代社会のインフラ言語としての、写真や動画を含む映像である。風景と肖像は写真というアートの主要なジャンルだが、そのどちらもが情報化社会の根幹をなす時代という意味でもある。

180年前に風景写真や肖像写真として誕生したアートが、日常生活を支えるまでに状況は変化した。写真という平板なイメージは、限りなくフラットに成長してゆくメディアとして、インフラグラムとなったのである。「平成」はそれにふさわしい時代の名と言えるかもしれないが、それより重要なことは、それまで目に見えていたことがインフラ化することによって、目に見えなくなっていくことである。インフラ化とはすなわちブラックボックス化である。インフラグラムは映像のブラックボックス化を伴う。

（港千尋『インフラグラム 映像文明の新世紀』による）

（注） ダゲレオタイプ——一八三九年にフランスのダゲールが発明した銀板写真法。

インスタグラム——SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の一つ。個人のページを作成し、写真を投稿してウェブ上に公開することができる。

平成の大逆転——平成の約三十年間のうちにデジタルカメラがアナログカメラに取って代わったことを指す。

インフラストラクチャー——道路や鉄道、上下水道のような社会の基盤となるもの。

ホルヘ・ルイス・ボルヘス——一八九九〜一九八六年。アルゼンチンの作家。

ポートレート——人物写真、肖像写真。

問1 二重傍線部ア・イの語句の本文中での意味として最も適當なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

ア 訝った

① 非難した

21

② 関心をもった

③ 怒りを覚えた

④ 不思議に思った

⑤ 不満をためた

イ 彷彿とさせる

① 比較しながら紹介する

22

② 似たものとして思い浮かべさせる

③ 無意識のうちに重ね合わせる

④ 過去の流行として懐かしむ

⑤ 偉大なものとして尊敬する

問2 空欄Ⅰ・Ⅳに入る語として最も適當なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上選ばないこと。

Ⅰ

Ⅳ

Ⅰ

Ⅳ

23

24

① 独立性

② 複合性

③ 社会性

④ 正確性

⑤ 遠隔性

⑥ 持続性

問3 空欄Ⅱ・Ⅲに入る語として最も適當なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上選ばないこと。

Ⅱ

Ⅲ

Ⅱ

Ⅲ

25

26

① 象徴

② 監視

③ 共有

④ 統一

⑤ 消費

⑥ 総体

問4 傍線部A「いまや写真は社会全体のコード化のための、プラットフォームだ」とあるが、
どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 顔を認識する機能が搭載された写真は、単なる肖像画ではなく個人や人物に関する情報をも含んだものとなり、IT社会を発展させる基盤になっているということ。
- ② 顔認証という技術が取り入れられた写真は、それまで人間が行っていた人物確認に関わる作業を大幅に削減し、IT社会を推進する原動力になっているということ。
- ③ 人間の表情まで識別できる写真は、さまざまな技術と組み合わせることにより人間と機械の距離を縮め、IT社会を円滑に築くために不可欠な土台になっているということ。
- ④ デジタル化の進んだ写真は、最新の技術によって大量の情報を一枚に圧縮できるようになり、IT社会の情報量の多さを削減するための道具になっているということ。
- ⑤ 個人を特定する機能を有する写真は、利便性が向上したものの個人のプライバシーを侵害する危険性もあり、IT社会に疲れた人々の逃げ場になっているということ。

問5 傍線部B「その顕著な例」とあるが、どのようなことについての例か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

- ① 写真を利用したグーグル社のサービスの中で社会のコード化を促進させるために最も成功を収めている例。
- ② 位置情報と写真を結びつけた技術が社会のコード化のプラットフォームとなり、世界的に普及している例。
- ③ 気づかないうちに写真が社会のコード化のために欠かせないインフラストラクチャーの一部となっている例。
- ④ ウェアラブルな性質をもつようになった写真が社会のコード化を支えるプラットフォームになっている例。
- ⑤ 社会のコード化が進んだ結果として写真がインフラストラクチャーの一部となることに成功している例。

問6 傍線部C「インフラ化とはすなわちブラックボックス化である」とあるが、本文の出典と
なっている著作において筆者は「仕組みや因果関係がみえない」ことを「ブラックボックス
化」の特徴として紹介している。このことを踏まえたうえで、「ブラックボックス化」の具
体例として誤っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 29

- ① 利用料金を払わなくても、SNSに写真や動画、文章などを投稿できること。
- ② 現金を渡さなくても、カードやスマートフォンを機械にかざして商品を購入できること。
- ③ 電話線がないのに、携帯電話やスマートフォンを通して音声のやりとりができること。
- ④ 内容は全く同じなのに、紙のほうが電子書籍よりも読書している実感がわくこと。
- ⑤ フィルムはないのに、DVDを機械にいれると音声や映像が再生されること。

問7 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 30

- ① カロタイプのようなアナログ写真とデジタル写真とを比べると、映像技術の点で優れて
いるデジタル写真のほうが芸術作品になりやすい。
- ② 複数の技術が詰め込まれているテクノ画像は平成の時代を通して、徐々にデジタル画像
から社会の中心的な地位を奪っていった。
- ③ スマートフォンなどの普及で写真とインターネットの関係が密接になると、国内の情報
インフラの問題点が浮かび上がってきた。
- ④ ストリートビューと顔認証システムは写真を最新技術と結びつける点では共通するが、
持ち運びの可否という点で異なっている。
- ⑤ 物質性を失って多くの情報を内包するようになった写真は、デジタル化した社会生活を
目に見えない基礎的部分から支えている。

第3問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今はむかし、浮世房御前に伺候申しけるきざみ、^(注)『天の緯は音もなく臭^かもなし』とは、いづれをさしてか天道とはいふべき』と仰せられしに、浮世房申すやう、^a『天何をかいふや。四時行はれ万物ここに生^なり』とあり。四季のめぐり、いにしへ今すこしも違^{たが}はず、万物の生じて栄え、花咲き実りおさまる事、定まりて改まらず。鳥のさへづり獣^{けちもの}のなく、みなこれその節に応ず。これ天道の理なり。人として天理にしたがふ時はながらへ、天理にたがふ時はほろぶ。それ天理にまかせ^bば、求めずしておのづから利あり。人の欲にしたがふ時は、思ひの外なる害あり。すべて人の善悪、かならずその報^アいなきにあらず。善をなす者には、天道これに報ゆるに福^{きはひ}をほどこし、悪をなす者には、天道これに報ゆるに禍^{わざひ}をあたへ給^{たま}ふ。さらにすこしも過つことなし。善悪をなす者、その報いなしといふ事なかれ。只^{ただ}その報いの時節、いまだ到らずと知るべし。たとへば、悪をなしてその報いのがれんがために、高く飛んで雲をしのぎ、遠く走りて地をくぐるとも、隠れがたくのがれがたし。只その報いの来たることの、遅きと早きとをあらそふのみなり。『豆を植うれば豆を得、粟^{あは}を植うれば粟を生ず』。善悪さらにその報いなしといふべからず。^B『天網恢々として、疎^{おそ}かなれども漏らさず』といへり。漢の馬援がいはいく、『身を終ふるまで善を行へども、善はなほ足らざるがごとし。一日悪を行へば、悪はおのづから余りあり』といへり。まことに善をなす事は、なせどもなせどもあくことなし。すこしなれども悪をなせば、みづから余り人にも余りて、たとへば一粒の毒丸^{どくがん}のよく命を奪ふがごとし。されば天道とて、空にあふぎて形を求むべからず。人々心のうちに皆そなへてこれあり。康節^{かうせつ}の邵先生^{せうせんせい}いへ^d事あり、『天はきけどもしづかにして音なし。蒼々^{そうそう}いづれのところにか尋ねん。高きにあらず遠きにあらず、すべて只人の心にあり。人の心一念を生ずれば、天地ことごとく皆知る。善悪にもし報いなくば乾坤^{けんこん}かならず私あらん』といへり。『天のことは音もなく臭^かもなし。いはんや形あらんや。蒼々いづれのところにか尋ねん』といへり。空の色の蒼々と青く、ほとりもなく際もなし。いづれの所にか天を尋ねてみる事を得んや。高きにもあらず、遠きにもあらず、只人の^fにあり。善は天理にしたがひ、悪は天理にそむく。人の念慮は天よく知ろしめす。されば善をなして禍来たり、悪をなして福あらば、これすなはち天道に^gありといふべし。善に^hあり、悪にⁱある、これ天道のすぐなるところなり。人をあざむく者は、まづみづからわが心をあざむくなり。心をあざむくは、これその天道をあざむくなり。偽りをもつて誠をかざり、私をもつて正直をくらます。他人はこれを信^いずべく、天道はいつはるべからず。^c『罪を天に獲れば、いのるに所なし』と論語にもしるせり。この故に、仁義礼智信は天の常の道なり。人もし不仁にして物をめぐまず、あはれみを知らず、不義にして欲深くむさぼり、不礼にしておごり、人をあなどり、不智にしてよこしまをかまへ、不信にして偽りあざむくやからは、天道にそむくが故に、かならず思ひがけぬ禍にかかるなり。^dこれを知りて身に行ひ、心にしめて忘れざれば、天の道にかなふ

が故に、福ながく子孫に伝はり、家さかゆるものなり」。

〔『浮世物語』による〕

〔注〕 御前——浮世房が仕えている主君。

きざみ——時。

緯——事。

仁義礼智信——儒教で、人が守るべき五つの徳目。

問1 傍線部ア・イの読みを現代仮名遣いのひらがなで記せ。

ア 報い

31

イ 故

32

問2 傍線部あゝうの語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

あ さらに

① そのうえに

33

② 新たに

③ まったく

④ そのまま

⑤ まさか

い あく

① ためらう

34

② 心が乱れる

③ 退屈する

④ 成し遂げる

⑤ 満足する

う すぐなる

① 正直である

35

② 身近である

③ 即決である

④ 立派である

⑤ 正確である

問3 波線部 a「申す」・c「給ふ」の敬語の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。 a 36 c 37

- ① 尊敬語で、作者の天道に対する敬意である。
- ② 尊敬語で、浮世房の天道に対する敬意である。
- ③ 尊敬語で、浮世房の御前に対する敬意である。
- ④ 謙讓語で、作者の浮世房に対する敬意である。
- ⑤ 謙讓語で、浮世房の御前に対して敬意である。
- ⑥ 謙讓語で、作者の御前に対する敬意である。

問4 空欄 b・d に入る助動詞として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。 b 38 d 39

- ① るれ ② る ③ たる
- ④ ぬ ⑤ ぬれ ⑥ させ

問5 波線部 e「いはんや形あらんや」の文法的説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 40

- ① 副詞＋名詞＋ラ行四段活用動詞＋適當の助動詞＋疑問の係助詞
- ② 副詞＋名詞＋ラ行変格活用動詞＋推量の助動詞＋反語の係助詞
- ③ 感動詞＋名詞＋ラ行四段活用動詞＋適當の助動詞＋詠嘆の間投助詞
- ④ 感動詞＋名詞＋ラ行変格活用動詞＋推量の助動詞＋疑問の係助詞
- ⑤ 感動詞＋名詞＋ラ行四段活用動詞＋適當の助動詞＋反語の係助詞

問6 空欄 f・g・h・i に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 41

- | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | f | 身 | g | 私 | h | 福 | i | 理 |
| ② | f | 身 | g | 禍 | h | 理 | i | 理 |
| ③ | f | 命 | g | 罪 | h | 理 | i | 禍 |
| ④ | f | 心 | g | 私 | h | 福 | i | 禍 |
| ⑤ | f | 心 | g | 罪 | h | 優 | i | 劣 |

問7 傍線部A「只その報いの時節、いまだ到らずと知るべし」の意味がよくわかるように、Aの前に省略されている内容を補うものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

42

- ① 善悪に対する天の報いを必要としていない場合には、
- ② 善悪に対する報いを天が迷っている場合には、
- ③ 善悪に対する報いを天がまだ行っていない場合には、
- ④ 天の報いである悪を人が受けても困らない場合には、
- ⑤ 天の報いなどない人と人が信じている場合には、

問8 傍線部B・Cの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。

B 天網恢々として、疎かなれども漏らさず

43

- ① 天の張る網は広大で目が粗いようだが、決して悪人を逃すことはない
- ② 天の張る網は広大で目が届かないようだが、すべての善悪を捉えている
- ③ 天の張る網はいい加減に見えるが、決して善悪の報いを間違えることはない
- ④ 天の張る網は大きくて厳重でないようだが、必ず悪人を捕らえて善人に変える
- ⑤ 天の張る網は大きくて目も粗いようだが、すべての善人を見つけて褒め称える

C 罪を天に獲れば、いのるに所なし

44

- ① 人が天に自分の罪を転嫁すると、その罪は永久に消えることはない
- ② 人が天に嘘をついたら、その罪を謝つても許してもらえない
- ③ 天の意に背いて罪を得ると、その罪は祈ってもどうにもならない
- ④ 天の意に逆らって人を欺くと、居る場所がなくなってしまう
- ⑤ 天から一度でも罰を受けると、天国には行くことができなくなる

問9 傍線部D「これ」の指す内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

45

- ① 人は天の真意を十分に理解できず、善をなして禍わざわいを受けたり悪をなして福を受けたりすると天の存在を疑ってしまうが、それは人に早合点する欠点を天が気づかせているということ。
- ② 人は家が栄え幸福に暮らしている者を見ると、うらやましく思い自分の運命を悲観し希望を失ってしまうが、それは人にまだ努力が足りないことを天が教え知らせているということ。
- ③ 天は人の心の中に必ず存在しているが形もなく目に見えないものであるので、天道を無視して自分の信念に従って行動し、誤りを犯した時に人は初めて天道の存在に気が付くということ。
- ④ 天は音も臭いもなく見えないものであるが、人の善悪を正確に捉えて善を行う者には福を悪を行う者には禍を与えるので、人は仁義礼智信を実行し天道にそむかないようにするということ。
- ⑤ 天は善をなす者には福を与え悪をなす者には禍を与えるが、それを与える時機はさまざまであるから、悪をなす者がそのまま悪を続けていると思ってもかけない禍を受けるということ。

(国語の問題は終わり)